

東春近「殿島城址」の歴史を調べて伝えよう

子どもたちは社会科の「身近な地域」を学んだことをきっかけに、地域の歴史に興味を持ちました。日頃から「殿島城址公園」を遊び場とする子どもたちが、「殿島城」について調べ始めます。WEBで検索したり、公民館に出かけて話を聞いたり、さまざまな方法で調査活動を行いました。調査結果をもとに、「殿島城の戦い」を中心に映像化して発表することにしました。時代考証を行い、衣装や小道具などを考えます。シナリオを考え、意見を出し合ってより良いものに練り上げていきます。

ここでは、学習発表会前のリハーサル（①～③）と発表会（④～⑥）の様子を伝えます。



①1年間の学習を3～4人のグループで振り返り、Keynoteを使ってプレゼンテーションします。リハーサルでは、友だちからさまざまな改善のアイデアが出されます。



②iMovieでグループごとに制作したシーンを再生し、内容・表現方法・校正の作業をクラス全員で行います。また、発表会でスムーズにプレゼンテーションできるかの打ち合わせも行います。



③クラス全員による検討会の後に再度グループに分かれて修正作業を行います。少人数で取り組むことによって、全ての子どもたちが映像編集に関わっています。



④学習発表会では自信を持ってプレゼンテーションを行いました。明るく大きな声で、見に来てくださった皆さんに向けて、堂々とした態度で発表を行いました。



⑤子どもたちが全てを作り上げた学習発表会に保護者の皆さんも感心しています。「内容がよく伝わってきたので地域の歴史を勉強したくなりました」という感想が聞かれました。



⑥殿島城址公園で城の歴史について教えていただいた東春近公民館の野溝公民館長さんからは、「クラスで団結して素晴らしい作品を作ってくれてびっくりしました。」と感想をいただきました。

東春近小学校 3年 小川美穂 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました

学習発表会の全てを子どもたちの手に委ねられる時代に

かつては、学習発表会では模造紙にまとめられたものを手に持って原稿を読み上げるといった発表や、先生がパワーポイントで作った映像をもとに子どもたちが発表する姿が見られました。しかし、1人1台のiPadが子どもたちの手に渡ったことで、Keynoteによるプレゼン資料の制作やビデオ制作といった作業まで子どもたちが行えるようになりました。

先生は学習全体のファシリテーターとして支援する役割になります。

今回の小川先生の取り組みは、映像制作などの学習の部分も子どもたちに任せ、子ども主体の学びを促進しました。これは、先進的な技術の導入によって、先進的な学びが実現した一例です。

表現する活動は学びを豊かなものにします



衣装や道具を揃えグリーンバックを利用して映像化



発表原稿はKeynoteで作成



iMovieを使って上手に合成されている迫力のシーン

子どもたちはWEBでの調査や歴史講座への参加、地域での取材活動を行いながら、どうすれば学んだことを正確に上手に伝えることができるかについての活動を行いました。

「表現する活動」によって、学びを豊かなものにすることができます。まさにクリエイティブな学びとなっています。

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び
協働的な学び
自立的な学び

子どもと共に
未来を創る教員

伊那市では「学校教育情報化ビジョン2024」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。